

第3回横浜市自殺対策計画策定検討会 会議録	
日 時	令和5年8月10日（木）10時00分～12時00分
開催場所	横浜市こころの健康相談センター 会議室 （ウェブ会議を併用した開催）
出席者	南部委員、山口委員、長見委員、水谷委員、谷川委員、松崎委員、庄子委員、藤尾委員、伊藤委員、加賀谷委員、嶋田委員、渡辺委員、近藤委員、齋藤（有）委員、高田委員、柿沼委員、白川委員、丸山委員、城田委員、齋藤（亜）委員、佐々井委員
欠席者	森山委員、須田委員、齋藤（庸）委員、菊池委員、森脇委員、戸矢崎委員、上原委員、新井委員、住田委員、宮村委員
開催形態	公開（傍聴人0人）
議 題	<p><b>【報告事項】</b></p> <p>1 自殺未遂者調査の報告</p> <p><b>【議題】</b></p> <p>1 第2期自殺対策計画素案の検討</p> <p>    論点1：素案内容について</p> <p>    論点2：最終目標及び中間目標と評価について</p> <p>    論点3：重点的施策に位置付ける事業について</p> <p>2 今後のスケジュール</p>
議 事	<p><b>【報告事項】</b></p> <p><b>1.自殺未遂者調査の報告</b></p> <p>（事務局）資料1を説明</p> <p>（事務局）ただ今の説明について、ご質問等がございますか。</p> <p>（委員）特になし。</p> <p><b>【議題】</b></p> <p><b>1 第2期自殺対策計画素案の検討</b></p> <p>（事務局）資料1-2、資料2を説明</p> <p><b>○ゲートキーパーの養成・研修について（その他全体構成について）</b></p> <p>（事務局）全体の構成についてご意見等があれば頂戴できればと思います。いかがでしょうか。</p> <p>（伊藤委員）ご説明ありがとうございました。先ほどの概要について自殺対策を支える人材育成の強化・新規・拡充というページがございましたけれども、この図に関しては素案の計画の中に盛り込まれるものですか、それとも今は資料としてご提示いただいているまでなのか。今後計画に盛り込んでいこうと思われているのか。</p> <p>（事務局）こちらの図につきましては、今後施策を体系化するにあたってのイメー</p>

ジであり、事業をどうするのかはこれからとなります。整理をして分かりやすい表現を考えていきたいと思っています。

(伊藤委員) この図ではかなり細かく研修の内容も組み込まれていると思います。初級・入門・中級が知識で、中級から上級が技術と分けられていたり、講義と講義・演習とも書いてあります。多分、専門的支援というのは精神保健福祉とか、医療福祉スタッフが想定されていると思うのですけれども、必ずしも演習にする必要性はないかもしれませんし、初級・中級というよりは対象別にコンテンツが違うとのイメージだと思うので、あまり細かく書きすぎるものを計画に盛り込んでしまうと後々講師にアサインする時、結構厳しいなと思います。ちょっと話が飛ぶのですが、アメリカのワシントン州で保健福祉系の職種の方は全員ゲートキーパーの研修が義務付けられているという法律がございます。その内容は、医療福祉職の中でも異なっています。例えば、作業療法士は3時間ですが、ソーシャルワーカーは6時間、というように分かれています。ソーシャルワーカーの場合は切迫した自殺のリスクの評価対象とか、軍人に入るコンテンツが入っており、作業療法士はそこまでやらない、と分かれています。必ずしも演習のあるなしではなくて、コンテンツの内容、知識として異なっているものであり、市民と専門職は知識自体が全然違いますので、あまり計画時点では細かく書かない方がよろしいだろうと思いました。

(事務局) 貴重なご意見をいただき、本当に勉強になりました。その他いかがでしょうか。

(藤尾委員) ゲートキーパー研修に関してなのですが、これまでも、あるいはこれからもそうでしょうけれども、そういうこと(自殺対策)に意識の高い人は当然研修に申し込んでくると思います。しかしながら、長年こういう活動をしていて思うのは、意識の低い人、あまり意識を向けていない人向けに研修ができないかと考えているところです。夏休み後の9月は子どもの自殺がすごく増え、去年は全国でも514人の小・中・高校生で亡くなった方がいたと思います。子どもは心が病気になるということを知らないし、そもそも鬱病という言葉を知りません。親も夏休みでなまけ癖がつき起きられなくなった等、SOSのサインを見落としている、誤解している。全くそういう知識がないので救えない、セーフティネットにかからないケースが結構多いような気がします。先生は当然そういう研修は受けていらっしゃるでしょうけれども、PTA向けの研修や児童・学童保育の方等、今まで研修を受けていない方に受けていただくのが、特に9月に向けて大事ではないかと思います。今そういう方々、子どもや父兄から相談を受けていて、この子はどう考えても鬱だなど思っても、親が認めないケースもあります。なので、周りの大人向けに意識を高める研修があってもいいのではないかと。もちろん相談に携わる人のスキルアップやさまざまな情報提供も大事ですが、そういう事にまったく関心がない、鬱とか心の病について全く理解していない大人、子どもがSOSを出していても全く気づかない大人が結構多いので、そういった方たち向けに何かできないかと気になりま

した。

(事務局) 先ほどゲートキーパーの養成は市の職員が6割という話をさせていただきましたが、意識の向いてない人をどう向かせるか、気づいてもらうことももちろん必要ですし、啓発の取組も合わせて、まずは取り組んでみようと思う人を増やしていく、そういう仕掛けで良い方法を考えていかなければいけないと思います。そのあたりのご意見いただきながら手法を考えていければと思います。その他いかがでしょうか

(齋藤(亜)委員) 今の話に補足ですが、私どもの事業の中でデートDV防止モデル事業をやっています。若年層からの教育が必要ということで、中学校・高校向けに公益財団法人横浜市男女協会とNPO法人エンパワメントかながわさんと協力して出前講座をやっています。子ども自身の教育も大事ですけれども、周りの大人の理解が非常に大切だということで学校の教員向けにも研修を行っています。学校の先生はお忙しいので、eラーニングを校長・副校長先生の管理職向けと実際に現場にいる養護教員・生徒指導専任教員等向けに実施しています。今年度も昨年度の反省もふまえて少し改良するのですが、教育委員会とも協力しながらやっております。情報共有でした。

(事務局) ゲートキーパーの養成は、学校の先生向けにも学校出前講座という形で、こころの健康相談センターの職員が学校に出向いて行っている取組もございます。ただ、マンパワーの関係もあって、多くの学校をまだ回れていないという状況もあります。学校やその周りの大人向けの教育も、まずは気軽に見てもらえるwebコンテンツも作っていただけるところでございます。その他いかがでしょうか。そうしましたら全体の構成等につきましては、このような形で進めさせていただければと思います。

#### ○最終目標・中間目標について

(事務局) 続きまして論点の二つ目として、最終目標・中間目標についてご意見頂戴いただければと思っております。いかがでしょうか。このような指標の設定の方向で概ねよろしいでしょうか。

基本認識は、国の大綱と異なる表現を使っているところもあります。こちらについても意見等いただけたらと思いますがいかがでしょうか。

(藤尾委員) この指標・基本認識はこのままでとてもいいと思います。非常事態が続いているということで気づいたのですが、未遂者の支援について、救急搬送されてきた時に、自傷であることが明らかである場合は当然何らかの精神疾患があることも考えられます。横浜市では、救急の現場に精神科医の方、心療内科医の方が関わる体制になっているのか気になりました。おそらく専門家の先生でしたら、この子はまた自殺未遂を繰り返すとのリスクは分かるので、その段階で何らかの追跡支援等があるか、ただ退院して終わりというだけでなく何らかの対応がなされている

か、例えば保健所やカウンセラー等につなげて引き続きフォローできる体制になっているのでしょうか。非常事態が続いているというのは、ただその時に命をつなぎとめたので終わりというのではなく、本人についてはその後も緊急事態が続いている状態ということであり、それをフォローする体制はどのような形で実施されているのか気になりました。

(事務局) ありがとうございます。市大センター病院に関しては委託事業ということで実際に介入していただく人も配置していただき、その人がご本人へのヒアリング等しながら関係機関につなぐ取組もしていただいています。ただ、横浜市は2次救急・3次救急の医療機関を含めると、それなりの数がある中で、精神科自体がない病院もあります。そういった中では、搬送された後のフォローは考えていかなければならないと思っております。

一方で、実際の救急搬送データの分析をしていると、精神科医がいない医療機関に自損の方を運ぶケースが少ないという結果もあります。救急医療機関に対して今後ヒアリングを実施するので、そこを確認できればと思っているところでございます。

#### ○ゲートキーパー養成に関する指標について

(伊藤委員) ゲートキーパーの中間目標について、行動まで別途調査、ゲートキーパーの役割を發揮している人の増ということで、一般的にはゲートキーパーの数だけだと思いますが、ここでは行動まで取ろうということなので、かなり挑戦的なものになってくるのかなと思います。もしそれを考えるうえで横浜市の方で何かお困りのことがあれば出していただければ、委員の方もいらっしゃるので良いのかなと思います。追跡調査をして、その後実際に接触したかを聞くのは非常にいいと思います。もう一つは、ゲートキーパーの研修を受けたことが、必ずしもゲートキーパーになったことと等価ではないということ、行動が起こったかを測りたいということだと思のですが、追跡しない方法として、最低限のスキルに関するテストを尺度として開発している先生方もおり、研修を受けた後にそのテストを受けてもらい、受講した方がスキルを取得できたかを確認するといった方法もあると思います。行動の変化を取るのには挑戦的なのでぜひやっていただき、何か協力できることがあればと思っております。

(事務局) ここは我々も書いておきながら難しいことを重々認識しております。今までゲートキーパー研修を受けていただいた方に、受講者証を出していなかったこともあり、受講者管理をどうしていくかも一つ課題であると思っております。他都市の事例を見るとアプリを使いながらという話も聞いておりますので、アプリを登録している人に定期的にアンケートを取る手法も考えられると思っております。認知度のテストのお話もありましたが、実際に行動してもらうことが重要と思いますので、例えばそういったアプリ登録が前提になりますが、アプリの登録者から体験

談を出してもらうことも一案と思っております。あわせて市民意識調査の中でも周りの人の話を聞く、周りの人の変化に気づいたときどうするかというアンケートも取っておりますので、ゲートキーパーの行動をとる人が増えていく、そういったことも組み合わせて考えていければと思っております。

#### ○重点施策に位置付ける事業について

(事務局) 重点施策に位置付ける事業について、資料をお送りしました。かなりボリュームがあるので今すぐのご意見が難しいところは重々承知していますが、こういった取組もあると良いなというご意見をいただけたらと思っておりますがいかがでしょうか。こちらについては何かご意見があれば、本検討会の場だけでなく、今後メール等でも随時頂戴できればと思っております。

#### ○その他

(事務局) 資料について概ねご意見等も頂戴いただけたのかとも思います。まだ計画素案については検討段階のものではございますが、素案がまとまりましたら、委員の皆様にお送りさせていただき、ご意見頂戴できればと考えております。本日ご用意した資料は以上となりますが、本日の資料だけではなく、その他含め、皆様から忌憚なきご意見をいただければと思っておりますがいかがでしょうか。

(山口委員) 藤尾委員の質問に関連しますが、以前に比べて救命救急センターに運ばれた患者さんを精神科医が院内で併診するというケースは、私が医者になった頃に比べると非常に増えております。今後我々がやらなければならないことだと思っておりますが、一般科と精神科の連携がさらに進めば、当然それが自殺対策につながると考えていますので、よろしく願いいたします。

(事務局) 一般科と精神科の連携の推進といったことについては、自殺未遂者支援施策として進めていかなければと事務局としても考えているところでございます。

(山口委員) よろしく願いいたします。

#### ○今後について

(事務局) 本日の予定していた議事については以上でございますが、次回第4回の検討会は10/24(火)の10:00-12:00で予定をさせていただいておりますが、この場で恐縮なのですけれども、今の時点でご都合の悪い方がいらっしゃいましたら挙手いただけたらと思っておりますが、いかがでございましょうか。

また何か変更等ありましたら事務局までご連絡いただければと思っております。本日の議事は以上となります。いただいたご意見を踏まえて素案を修正させていただき、次回の検討会でご意見いただければと思っております。また、本日の議事録につきましては作成でき次第、委員の皆様にお送りさせていただきますので、よろしく願いいたします。本日はお忙しいところありがとうございました。また引き続きよろしく

	お願いいたします。
資 料	<p><b>【配布資料】</b></p> <p>資料 1 第 2 期横浜市自殺対策計画（素案）</p> <p>資料 1 - 2 第 2 期横浜市自殺対策計画（素案）の概要</p> <p>資料 2 重点的施策に位置付ける事業一覧</p> <p><b>【参考資料】</b></p> <p>参考 1 横浜市自殺対策計画</p> <p>参考 2 自殺総合対策大綱（R4 年10月閣議決定版）</p>